

『落窪物語』の人物造型 —道頼と姫君を中心に—

Figure modeling in Ochikubo-monogatari
—Focusing on Michiyori and Himegimi—

笠松 紗希
Saki Kasamatsu

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：人物造型，物語，特質
Key words : Molding, Story, Characteristics

1. 研究目的

本研究は『落窪物語』の主人公であるみちよりと姫君を中心に、物語に登場する人物造型と特質について研究するものである。

先行研究と本文の綿密な読みを通して、人物造型について分析を行っていく。具体的には姫君と道頼の二名を対象とした地の文、会話文、和歌を読み込み作品の大きな特徴といえるであろう「登場人物の許の性格及びその後の性格の変化」についてどの時点で、どのような行動で、どう変化したのかについて分析、明らかにしていく。

物語文学において、人物造型を読み解くことは非常に重要なことである。人物造型からは物語の性格、特質、時代性といったことをより細かく理解し、読み解くことが出来る。これらを読み解くことは物語のさらなる発展につながると考える。

物語の人物造型を読み解き、人物造型について、分析し読み解くことで、『落窪物語』の特徴と特質を見出すことを目的とする。

2. 研究実施内容

道頼の人物造型は彼の復讐内容はほとんどが、姫君がされたいじめと同じ内容であることや、周りから嘲笑され、辱めを受けるものであることが分かった。以上のことから、道頼の暴力的な性格は姫君を愛しているが故の行動であること、姫君の存在によって色好みの男性から一途に姫君だけを愛するようになったことの二点が読み取れた。

姫君については女主人公らしいどんな状況でも優しさを忘れないこと、いじめられてきたことを

全て忘れ、仕返しをしようとしないうこと、またいじめられている環境の中、道頼に愛されることによって少しずつ強くなっていく女性として描かれていることが分かった。また先行研究の中で注目していた縫製行為については道頼の母北の方に認められるための行動として描かれている場面もあり、彼女が道頼の正妻としての社会的地位を得るための行為として描かれていることから彼女の人物造型として重要な役割を持っていると考えられる。

最後に『落窪物語』の特質については以下の点があげられる。

まず、物語の特徴として登場人物の人物造型が非常に綿密であり、個性が際立っていることが挙げられる。この点はほかのどの作品よりも秀でている点であり、『落窪物語』最大の特徴と言えるだろう。これによっていくつかの『落窪物語』としての特質が見受けられる。

一つは『落窪物語』の登場人物の関係性だ、『落窪物語』は道頼の周辺人物や姫君の周辺人物は特に造型がしっかりしている。そして造型がしっかりしている人物である場合、主人公の二人は直接的、または間接的に関わりがあり、お互いに知らない存在がほとんどいないと言える。つまり互いの交友関係が深ければ深いほど相手もその存在を知っている、または相手から聞いたことがある存在なのである。それは人物造型が綿密であるからこそできることである、と考えられる。さらに、『落窪物語』は、綿密な人物造型によって構成されている物語であり、どの登場人物とどのように

つなげるか、どのように話を進めるか、構成はどうするかといった点で重点をおいている作品であると考えた。そのため、『落窪物語』は人物同士の関係性が分かりやすく、簡潔で分かりやすい作品としてみる事が出来る。この二点が『落窪物語』の特質であるとした。

3. まとめと今後の課題

今回は、道頼と姫君を中心とした人物造型を研究してきたうえで『落窪物語』の特性を論じた。しかし、『落窪物語』には人物造型以外にも「継母のいじめ」、「物語の結婚」、「面白の駒」、「車争い」など多くの特徴的な場面があり、研究の余地は多くある。今後は人物造型の観点からではなく、前述

したような観点から『落窪物語』を研究、分析することでさらなる『落窪物語』の特質を見出す必要性がある。

4. この助成による発表論文等

『落窪物語』の人物造型—道頼と姫君を中心に—
(大学院 令和5年度修士論文中間発表会)

『落窪物語』の人物造型—道頼と姫君を中心に—
(大学院 令和5年度修士論文発表会)

付記

本研究は大妻女子大学大学院人間生活文化研究所の研究助成(DB2309)「『落窪物語』の人物造型—道頼と姫君を中心に—」を受けたものです。